CUBAPONニュース

日本キューバ連帯委員会

http://ifcc1985.com/cubapon/ 郵便振込口座 00170-2-195919

No.53
2017年
5月

東京都新宿区山吹町333辻ビル405
IFCC気付
TEL : 03-3268-4387
FAX : 03-3268-6079
E-mail jvccp@rmail.plala.or.jp

2016キューバ友好訪問団 ● 2016年11月22日～29日

キューバの今を見つめ、歴史に立ち合う

アメリカとの国交回復、第７回キューバ共産党大会と、近年、内外情勢が目まぐるしいキューバの「今」と展望を見つめる2016秋・CUBAPONキューバ友好訪問団は11月22日から８日間の日程で、齋藤団長以下７名がキューバを訪れました。

滞在中、11月25日にフィデル・カストロ革命最高司令官が逝去されるという衝撃的な出来事に立ち合い、記憶に深く刻まれる訪問となりました。

11月25日、ビランのフィデルの生家を訪れた

訪問団は11月22日、キューバに到着し翌23日は基本コースと青年の島コースに分かれました。

基本コースの４名は専用バスでサンタ・クララに向かい、革命勝利を決定づけた列車襲撃跡やチェ・ゲバラ廟、カピーロの丘など歴史的な場所を訪ねました。

青年の島コースの３名は早朝便で青年の島に向かい、島の日系人協会のミヤザワ会長、上河ヨシコさんたちに温かく迎えられ、CUBAPONが政府の草の根無償資金を活用して贈った農業機材の配置状況を視察。その後、島の日系人とも関わりが深いモデロ監獄を訪れるなど、正味一日という短い滞在の中で精力的に活動しました。

ニコ・ロペス党学校にて。ロサリオ・ペントン校長（左から５人目）とともに

24日、基本コースのポリクリニコ（診療所）見学の後、青年の島コースと合流、全員揃ってニコ・ロペス党学校を表敬訪問し、ロサリオ・ペントン校長から第７回キューバ共産党大会で議論、決定された内容とキューバの課題と展望、党の役割などをお話いただき、意見交換を行いました。午後はCTC（キューバ労働者中央組織）を訪問し、ファビアン国際局副局長とキューバの現状と改革にあたっての労働者、労働組合の任務について意見交換を行いました。この日の２つの表敬訪問で話されたことは、2011年の第６回キューバ共産党大会、昨年の第７回党大会と、二度の大会を通じて決定された改革を党と労働組合が両輪となって前に進めて行くこと、行き過ぎや弊害はマルクス・レーニン主義並びにホセ・マルティ、フィデル・カストロの思想に学び回避し得ること、そして何よりも社会主義を堅持するということです。こうしたキューバの「チャレンジ」が実を結ぶことを祈ってやみません。

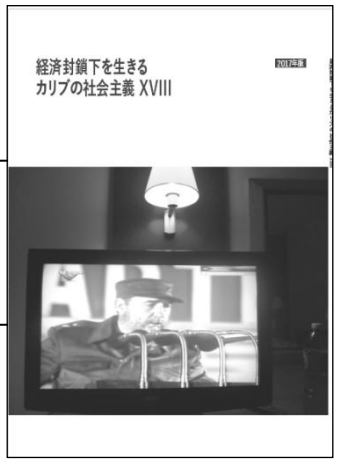
翌11月25日、早朝便で私たちは「革命のゆりかご」サンティアゴ・デ・クーバに向かいました（次ページに続く）。

報告集が完成しました

経済封鎖下を生きる
カリブの社会主義 XVIII

2017年版

好評発売中！（頒価800円）



追悼

フィデル・カストロ革命最高司令官（コマンダンテ）

SÁBADO 26 NOVIEMBRE 2016
La Habana
Año 58 de la Revolución

EDICIÓN ÚNICA CIERRE: 5:30 A.M. | AÑO 52 No. 285 20 cts

Granma

El hombre crece con el trabajo que sale de sus manos

ÓRGANO OFICIAL DEL COMITÉ CENTRAL DEL PARTIDO COMUNISTA DE CUBA

¡Hasta la victoria siempre, Fidel!

Querido pueblo de Cuba:
Con profundo dolor comparezco para informar a nuestro pueblo, a los amigos de nuestra América y del mundo, que hoy 25 de noviembre del 2016, a las 10:29 horas de la noche, falleció el Comandante en Jefe de la Revolución Cubana, Fidel Castro Ruz.
En cumplimiento de la voluntad expresa del compañero Fidel, sus restos serán cremados.
En las primeras horas de mañana sábado 26, la Comisión Organizadora de los funerales brindará a nuestro pueblo una información detallada sobre la organización del homenaje póstumo que se le tributará al fundador de la Revolución Cubana.
¡Hasta la victoria siempre!

Decreta el Consejo de Estado Duelo Nacional

Con motivo del fallecimiento del Comandante en Jefe de la Revolución Cubana, Fidel Castro Ruz, el Consejo de Estado de la República de Cuba declara nueve días de Duelo Nacional, a partir de las 06:00 horas del 26 de noviembre hasta las 12:00 horas del 4 de diciembre de 2016.
Durante la vigencia del Duelo Nacional cesarán las actividades y espectáculos públicos, ondeará la enseña nacional a media asta en los edificios públicos y establecimientos militares. La radio y la televisión mantendrán una programación informativa, patriótica e histórica.
Consejo de Estado de la República de Cuba.

Nota de prensa de la Comisión Organizadora

La Comisión Organizadora del Comité Central del Partido, el Estado y el Gobierno para las honras fúnebres del Comandante en Jefe Fidel Castro Ruz, informa a la población que a partir del 28 de noviembre, desde las 09:00 hasta las 22:00 horas, en el Memorial "José Martí", la población de la capital podrá acudir a rendirle merecido homenaje a su líder, el cual se extenderá hasta el 29 de noviembre en el horario comprendido entre las 09:00 y las 12:00 horas.
Los días 28 y el 29 de noviembre, entre las 09:00 y las 22:00 horas, en los lugares que se informarán oportunamente en cada localidad, incluida la capital, todos los cubanos tendremos la posibilidad de rendir homenaje y firmar el solemne juramento de cumplir el concepto de Revolución, expresado por nuestro líder histórico el primero de mayo del 2000, como expresión de la voluntad de dar continuidad a sus ideas y a nuestro socialismo.
El día 29 de noviembre, a las 19:00 horas, se realizará un acto de masas en la Plaza de la Revolución "José Martí" de la Capital.
Al día siguiente se iniciará el traslado de sus cenizas por el itinerario que rememora La Caravana de la Libertad en enero de 1959, hasta la provincia de Santiago de Cuba, concluyendo el día 3 de diciembre.
Este propio día, a las 19:00 horas, se realizará un acto de masas en la Plaza "Antonio Maceo".
La ceremonia de inhumación se efectuará a las 07:00 horas del día 4 de diciembre en el cementerio de "Santa Ifigenia".
Igualmente se informa a nuestro pueblo que la Revista Militar y marcha del pueblo combatiente por el 60 aniversario del desembarco de los expedicionarios del yate Granma, día de las Fuerzas Armadas Revolucionarias, se pospone para el 2 de enero de 2017.
Comisión Organizadora

フィデルの訃報を伝えるグランマ紙（11/26）

サンティアゴ・デ・クーバの空港から隣のオルギン州のビランに向かい、フィデルの生家を訪ねました。生家にはカストロ家のお墓があり、そこで「フィデルが亡くなったら、ここではなく、サンタ・イフィヘニア墓地に埋葬されることになっている」という説明がありました。

それからサンティアゴ市内に戻り、革命の出発点とも言われるモンカダ兵営襲撃博物館、1959 年 1 月 1 日、フィデル・カストロが革命成功を宣言したセスペデス広場、最後にホセ・マルティが眠るサンタ・イフィヘニア墓地を訪ねました。ホセ・マルティ廟の近くにぽっかりと空いた区画があり、そこで「フィデルが亡くなったらここに埋葬される予定だと言われている」という説明がありました。

生まれた家から埋葬予定地まで、フィデル・カストロの生涯を駆け足で巡ったような 1 日でした。

それにしても 2 度も「フィデルが亡くなったら」という話を聞くとは。何だか不思議な気がしました。

その夜、22 時 29 分
フィデル・カストロ前議長が永眠されました。

翌日２６日、ハバナに戻り、ICAP（諸国人民友好協会）を表敬訪問しました。各国からのお悔みのメッセージの対応で一睡もしていないというアリシア副総裁は、時折、嗚咽をこらえながらも、会談の最後には「私たちにはフィデルに教えられたことを実行していく責任がある。日本に帰って、キューバはこれからどうなるのかと聞かれたら『キューバはこれからもフィデルの道を歩み続ける』と答えてほしい」と強い決意を述べました。また、「弔問に訪れた最初の友好団体として CUBAPON を機関紙で紹介するので、一緒に写真を撮ってほしい」ということで、フィデルのポートレートを囲んで写真をとりました。

その日からキューバは服喪に入り、アルコール類の販売が自粛となりました。知らずにスーパーに行き、「ビール売ってないの？どうして？」と聞くと若い店員は「それは、コマンダンテが」と言って俯いてしまいました。彼の声と表情からフィデルがどのような存在であったのかよくわかりました。日本を含め「西側」では時に独裁者呼ばわりもされるフィデルですが、あのときキューバにいた私たちは、彼は国民から深く愛され尊敬されていたと断言することができます。その意味でも、今回の訪問は「本当のキューバを知る旅」となりました。

尚、訪問団の詳しいレポートと感想は「経済封鎖下を生きるカリブの社会主義ＸＶⅢ」（800 円）で紹介しておりますので、ぜひお求め下さい。

アリシア副総裁（右から３人目）とフィデルのポスターを囲んで

IFC ツアーは
共同出資の手配旅行社です

- ●アイエフシーは IFCC 国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い” を通した友好と平和のプログラムを提案します。
- ●アイエフシーは文化、政治、福祉などの分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ●アイエフシーはキューバ、メキシコ、ベトナム、中国、ドイツ、デンマーク、ロシア、その他のアジア、欧州などでプランニングを行います。

東京都知事登録旅行業第 3757 号
〒162－0801 東京都新宿区山吹町 333 番地　辻ビル 405
TEL03-3268-6014　FAX03-3268-6079

11 月 28 日早朝、ハバナの空港で訪問団の仲間を見送ってから延泊で数週間ハバナに滞在しました。

12 月４日午前中までの服喪の間は、追悼番組を見たり追悼行事に参加したりと、フィデル一色で過ごしました。これは私だけでなくキューバの人たちも同様で、多くの人がフィデルを語り、多くの涙が流されました。

（レポート：村上久美子）

革命広場で開かれた国葬

私がフィデルだ

11 月 29 日夜、革命広場で国葬が行われました。

各国代表が弔辞を述べる中で特に強い印象に残したのはニカラグアのダニエル・オルテガ大統領でした。彼は３度、「フィデルはどこにいる？」と問いかけました。革命広場を埋め尽くした人々は、１度めと２度目は「ここにいる（Aquí）」と答えました。そして３度目の問いかけに、どこからか「私がフィデルだ（Yo soy Fidel）」の声が沸き上がり、全員で拳をあげて「私がフィデルだ」コールに発展しました。

「私がフィデルだ」の相言葉は瞬く間に全国に広まりました。

30 日、フィデルの遺灰が車に安置され、サンティアゴ・デ・クーバに向けて葬列が出発しました。

フィデルに最後のお別れ

1959 年１月１日、革命を成し遂げたフィデル・カストロは、翌 2 日、サンティアゴ・デ・クーバからハバナに向かってキャラバンを開始しましたが、今回は、ハバナからサンティアゴ・デ・クーバへ帰っていく道です。最後のお別れに沿道に出た人々はフィデルの遺灰を「私がフィデルだ」コールで迎え、そして見送ったのです。フィデルへの愛とフィデルの思想を引き継ぐ決意をこめて「私がフィデルだ」と。

通りに掲げられた国旗と写真

あの歴史的な日々にキューバに居合わせ、彼らの想いを幾らかでも共有し、改めてキューバって凄い国だと思いました。

移民の足跡を訪ねて青年の島へ

紺野 滋さん（福島県/桑折町）

青年の島を訪れる CUBAPON 訪問団をいつも笑顔で迎えてくれる上河ヨシコさんの嫁ぎ先にあたるハンザワ・ファミリーのルーツは福島県伊達郡桑折町にあります。その桑折町から今年 4 月、１人のジャーナリストが青年の島に向けて旅立ちました。

ヨシコさんと日系人ファミリーの子どもたち

県の有力紙「福島民友」で記者を勤め、退職後、フリーで活躍する紺野 滋さんの心をとらえたのは、国の移民政策によって中南米をめざした人々の数が東北の中で福島県が最多で、中でも桑折町は特に多かったこと、ペルーやブラジルに比べてキューバ移民の資料が少ないことだと言います。長年、調査を進めてきて、今回「福島県出身のキューバ移民の足跡を訪ねる」ことを目的に青年の島への取材旅行を実現させました。

紺 野　滋 さん

青年の島ではヨシコさんの案内でモデロ監獄や日系人のお宅を訪問し、移民創成期のお話を直接伺うことができたそうです。

ヨシコさんのお連れ合いのエドワルドさんの祖父にあたる移民１世の半沢豊三郎氏は、カマグエイでサトウキビ労働に従事した後、青年の島に移り住み、第２次世界大戦が勃発した時は島の中部にあるコロンビアという土地に住んでいたそうです。大戦中、敵性国民として全ての日系人男性モデロ監獄に収容されることになり、そこから徒歩で移送されたと言います。

そうした苦難の歴史を含め、キューバ移民の存在を福島県民はじめ多くの人に知ってほしいと、紺野さんは取材した内容をもとに本を執筆し、来年、出版する予定です。キューバがより身近に感じられる一冊になることでしょう。

完成したらニュース紙上でご紹介します。

CUBAPON 2016年度 収支報告（16年度6月1日~17年度5月31日）

●支　出

支出	会報印刷代	41,004	CUBAPONニュース51号、52号
	その他印刷代	102,748	チラシ、封筒、資料、松矢前事務局長遺稿集
	送　　料	70,136	会費、連絡等
	事務局諸費	72,630	旅費、会議、資料代、HP分担費等
	事業費①	125,348	ICAP受入「研究会議」経費
	事業費②	258,000	19回訪問団経費補填
	事業費③	41,500	第8回連帯会議派遣
	事業費④	48,032	稲作プロジェクト終了報告書等
	計	759,398	

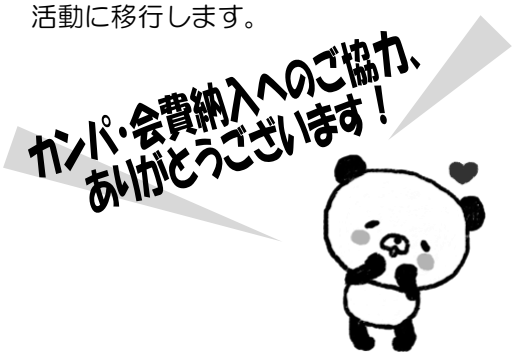
●収　入

収入	会　　費	180,000	60名
	16年度寄付金①	72,261	稲作プロジェクト（個人カンパ）より
	16年度寄付金②	103,747	細谷様より16年度
	カンパ金	123,000	ICAP受入「研究会議」
	１６年度借入金	280,390	IFCCより
	計	759,398	

● IFCC からの借入が 280,390 円と大幅になっています。

● 2016 年度は寄付金とカンパ金に支えられ特別な事業を実施できましたが、訪問団経費補填相当分が借り入れとなってしまいました。訪問団参加人数が少なかったためです。

● 2017 年度は会費納入分相当に準じた活動に移行します。



第8回 キューバ連帯アジア太平洋地域会議
in マニラ（フィリピン）

4月８日から９日、フィリピンのマニラで、18 カ国から 120 名が参加し、第８回キューバ連帯アジア太平洋地域会議が開かれました。
CUBAPON からは松本莫さんが参加しました。

２日間にわたる今回の会議では、インターネットを通じてアメリカによる経済封鎖の中で社会・経済発展をめざすキューバの真実の姿を広める活動を含め、キューバへの支援の強化をはじめとするテーマで討論が行われました。

キューバは、アメリカと国交回復はしたものの、経済封鎖はまだ続いており、グアンタナモ米軍基地の返還もされていません。最終日に確認されたアジェンデ（次ページ参照）にもこの２点について強調されました。

ICAP を代表してあいさつに立ったアリシア副総裁からは開催国フィリピン政府並びに政府を代表して参加した保健省大臣をはじめ各国友好団体に対し御礼の言葉が述べられました。

フィリピンの保健省大臣からは、キューバの医療モデルを参考に新たな医療体制を計画中であること、またインド、スリランカ、バングラディッシュなどの代表者から社会主義運動の現状が報告されました。

また、開会セレモニーで、フィデルの死を悼み創作された曲「Cabalgando con Fidel（フィデルと馬に乗って）」が流れ黙祷が捧げられた今地域会議では「フィデルは過去にはならない」ことが随所で確認されました。

尚、アジア太平洋地域のキューバと連帯する友好団体は現在 20 カ国に 107 を数えるとのことです。

ICAP新総裁に フェルナンド・ゴンザレス氏
（「５人の英雄」の一人）

ICAP 新総裁にフェルナンド・ゴンザレス氏が就任しました。

フェルナンド氏は 1963 年ハバナ生まれ。反テロリズムの闘いに従事し 1998 年にアメリカ国内で拘束された「5 人の英雄」の一人で、2001 年、禁固 19 年に処せられましたが、2014 年１２月、アメリカとの国交回復に向けた交渉開始とともに電撃的にキューバに帰還。ICAP 副総裁の任を経て、今回、ケニア・セラーノ総裁の後任として新総裁に就任されました。

「キューバ連帯・アジア太平洋地域会議」とは

世界各国の友好組織との連帯強化を目的に ICAP（キューバ諸国人民友好協会）が中心となって全世界４つの地域で「キューバ連帯地域会議」を開催している。アジア太平洋地域では、ほぼ隔年で開かれており、今回のマニラ会議で８回目を数える。

【マニラ宣言】

キューバ連帯アジア太平洋地域大会最終宣言

オーストラリア・バングラデシュ・カンボジア・キューバ・中華人民共和国・日本・韓国・北朝鮮・ラオス・マレーシア・モンゴル・ニュージーランド・フィリピン・スリランカ・東ティモール・アメリカ合衆国・ベトナム、アジア・アフリカ連帯委員会の私たち代表団は、ICAP とフィリピン実行委員会の主催によるキューバ連帯アジア太平洋地域大会のためフィリピンの首都マニラに集結し、以下の宣言を行う。

キューバ革命の歴史的指導者であるフィデル・カストロ・ルス最高司令官の逝去後、最初に開かれるアジア太平洋地域会議にあたり、フィデルのゆるぎない指導により達成されたキューバ革命から一貫して継続されている社会正義と社会主義思想が国を超え、こうした国際会議を通じ継続されていることを評価する。本会議は、フィデル死去によりキューバ革命が逆行すると妄言している帝国主義者と反革命分子に対する挑戦である。

ここに集まった私たち 120 名の代表団は、アジア太平洋地域でキューバ友好を多面的に推し進め、社会主義キューバを守ることが、人民が富と力をもって真に人間的な世界を建設する夢と希望をはぐくむ上で最も重要と認知する。アメリカ合衆国の歴代政権から 60 年以上も多くの方法で抑圧されてきたキューバ政府に対して、私たちは全面的なサポートと連帯の意を表明する。

私たちはキューバ人民が革命後 58 年間に成し遂げた業績に対し敬意を表する。革命キューバの無私公平と継続性は世界中の人々から評価されている。とりわけキューバが行ってきた医療・教育支援は近隣のカリブ諸国からだけでなく、世界中の発展途上国の人々から高い評価を得ている。

同時に

キューバ人民を苦しめ、違法で近代史に例を見ない対キューバ経済封鎖の終了を、私たちは合衆国政府に要求する。経済封鎖を非難した 2016 年の国連決議の際、合衆国とイスラエル両国が棄権したことも言及しておく。
私たちは、アメリカ合衆国に不法に占拠されているキューバ東部のグアンタナモ海軍基地（117km^2）の返還を要求する。

キューバに対する破壊的なプログラムを行うアメリカ合衆国に政権交代を要求する。キューバ革命を貶めるマスメディアに対して非難するとともに、キューバの真の姿とキューバ政府の業績を世界に広める決意を新たにする。

アメリカ合衆国政府に対して、クバーナ航空 455 便爆破事件実行犯及びキューバ・中南米人民に対する暴虐な犯罪の実行犯であるルイス・ポサダ・カリレスとオルランド・ボッシュの２人のテロリストをベネズエラへ引き渡す司法手続遂行を要求する。

私たちはキューバ人の独立権、自治権、自決権を断固支持し、世界のすべての国々もそうであることを願う。独立自治を危うくする帝国主義者からの攻撃に苦しむベネズエラとの連帯を進める。

私たちはキューバ連帯運動を各国で促進する。真実を求め団結することが私たちの最大の武器である。

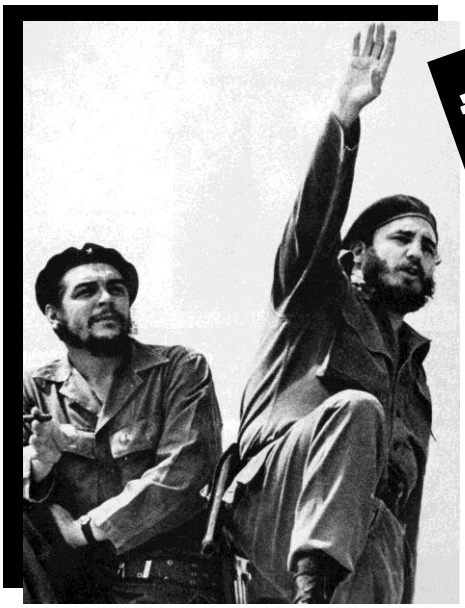
第 8 回キューバ連帯アジア太平洋地域大会において、ICAP ケニア・セラーノ総裁の過去 8 年間のキューバ連帯運動国際化業績を称えると同時に、フェルナンド・ゴンザレス・ヨルト（キューバ「5 人の英雄」の 1 人）の新総裁就任を歓迎する。

私たちは、キューバ連帯アジア太平洋地域大会を成功させたフィリピン実行委員会（PCCFA＆PCFS）の皆さん、フィリピン政府の尽力にも感謝の意を表する。

自由・平和・民主主義・社会経済発展を目指しつつ帝国主義と戦うフィリピン人民の幸運を祈る。

キューバ連帯アジア太平洋地域大会 代表団

2017 年 4 月 9 日マニラにて
（訳：CUBAPON 事務局）



参加者募集中

2017秋 キューバ平和友好訪問団

強く、美しく生き切った二人に出会う旅

キューバの“特別期”の2003年12月に訪問団を実施して以来、20 回を数えることになります。2007年のチェ・ゲバラ没 40 年・コマンダンシア訪問を含めると21回の訪問となります。

キューバの移りゆく姿、堅持されている姿をレポートし続けてきました。

＊　　＊　　＊

今年、フィデル・カストロ一周忌とチェ・ゲバラ50回忌にあたり、フィデルとチェの足跡を訪ねる2017秋キューバ友好訪問団を企画しています。人々を魅了してやまない二人の超人的な強さと清廉で美しい生き方に触れる旅に、ぜひご参加下さい。

2017年11月22日～29日（8日間）

日数	月日	都市名	スケジュール・宿泊地	食事
1	11/22（水）	羽田発 ハバナ着	午後：空路、トロントへ 国際線乗り継ぎ、ハバナへ　（ハバナ泊）	昼：機 夕：×
2	11/23（木）	ハバナ ↓ サンティアゴ・デ・クーバ ↓ サント・ドミンゴ	◆ ハバナ市内見学（世界遺産ハバナ旧市内散策・革命博物館・革命広場など） ◆ 国内線にてサンティアゴ・デ・クーバへ ◆ コマンダンシア近くの麓の町、サント・ドミンゴへ専用車で移動 （サント・ドミンゴ泊）	朝・昼・夕　全食事付
3	11/24（金）	コマンダンシア ↓ サンティアゴ・デ・クーバ	◆ 革命戦でカストロ、ゲバラが活躍したコマンダンシア（革命軍司令部）トレッキング ◆ 専用車でサンティアゴ・デ・クーバへ （サンティアゴ・デ・クーバ泊）	
4	11/25（土）	サンティアゴ・デ・クーバ ↓ ハバナ	◆ 専用車でビランへ。フィデルの生家見学 ◆ フィデル・カストロが眠るサンタ・イフィヘニア墓地へ。一周忌の墓参 ◆ サンティアゴ市内見学 ◆ 空路ハバナへ （ハバナ泊）	
5	11/26（日）	ハバナ ↓↑ サンタ・クララ	◆ 専用車でサンタ・クララへ ◆ チェ・ゲバラ没50年―ゲバラ廟はじめサンタ・クララの革命史跡巡り （ハバナ泊）	
6	11/27（月）	終日ハバナ	◆ CTC（労働組合本部）表敬訪問 ◆ ICAP（諸国人民友好協会）表敬訪問 ◆ お土産品等のショッピング ◆ ヘミングウェイが愛したレストラン「ボデギータ」でお食事 （ハバナ泊）	
7	11/28（火）	ハバナ発	早朝、空路帰国の途（トロント経由）へ （機内泊）	朝：〇 昼：機 夕：機
8	11/29（水）	羽田着	午後着 着後、解散。お疲れさまでした！	昼：機

※ 現地日程は現在調整中です。変更となる場合があります

● フィデル・カストロ一周忌

半世紀以上、革命の先頭に立ち続けたフィデル・カストロ革命最高司令官は2016年11月25日、永い眠りにつきました。

フィデルの生家をはじめ、革命の出発点となったサンティアゴ・デ・クーバのモンカダ兵営など、革命の軌跡とフィデルの生涯を辿り、一周忌となる11月25日には、フィデル・カストロが眠るサンタ・イフィヘニア墓地を訪れます。

● チェ・ゲバラ没50年

1967年10月9日、ボリビアの地で壮絶な最期をとげたチェ・ゲバラは虐げられた人々のために世界中を駆け巡った革命家であり旅人であり、なにより人を愛することに長けた人として今もなお世界中の人々の心に生き続けています。

５０回忌にあたる今年、サンタ・クララのゲバラ廟などチェ・ゲバラゆかりの地を訪れます。

● コマンダンシアへ！

シエラマエストラ山脈に置かれた革命軍の司令部「コマンダンシア」。この地を拠点に、若きフィデル・カストロ、チェ・ゲバラがバチスタ独裁体制打倒に向けて躍動し、ついに1959年１月１日、キューバ革命を成し遂げました。

革命を勝利に導いた彼らの力を感じながらトレッキングでコマンダンシアをめざします。